学校法人 滋慶学園　東京ホテル・観光＆ホスピタリティ専門学校　学校関係者評価委員会 記録

大項目	点検・評価項目	自己評価 優れている…3 適切…2 改善が必要…1	点検・評価項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）	評　価 優れている…3 適切…2 改善が必要…1	学校関係者評価委員よりの御意見
1 教育理念・目的・育成人材像	1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか 1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか 1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取組んでいるか 1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	3	本校は滋慶学園グループに属し、「職業教育を通して、社会に貢献する」ことをミッションとしている。このことを実践する為に、「実学教育」「人間教育」「国際教育」という3つの建学の理念を基本に教育を実施している。 このことは、全教職員に浸透し、コンセンサスは充分に得られている。 また、業界と共に業界が必要とする即戦力の人材育成し、業界に送り出すという「産学連携教育」を開校以来、実践してきた。 具体的には、講師の派遣、学習する題材としての企業課題や企業プロジェクトの提供、機材・機器選定のアドバイス、研修・実習の受入など、多岐に渡って協力を頂いている。 今後も、より一層業界との関わりを推し進め、より多くの企業・業界人から、更に深く、広範囲での支援を頂くと共に、業界からの支援をより効果的に教育に反映させるカリキュラム・システムの開発を実践していく。	職業人教育は、専門職業教育とキャリア教育から成る。専門職業教育とは、即戦力としての高度な技術・知識の習得であり、キャリア教育とは、プロの職業人として必要な人間力、仕事に対する身構え・気構え・心構えの習得を言う。 本校では、キャリア教育のアプローチとして、3つに時期を捉えて展開する。 ①キャリア形成 入学前の時期に、オープンキャンパスやマイスクールを通して、基盤となる勤労観・職業観の形成と確立をする時期。 ②在学中は、専門職業に就くプロセスの設計と能力の習得をする時期。 ③卒業後は、卒後教育等を通して、社会・職業人への移行と更なるキャリア開発をする時期	3	・教育理念、4つの信頼など学生を育成していく上で、また学生が育っていく上で重要な要素を揃えていると感じている。 さまざまなネットワークを使い、学生が納得できる、満足できる学習機会が備わっている。 型にはまらない、はめこまない自由な発想も育てていく人財育成にも今後取り組んで頂きたい。基礎としての型は非常に重要だが、それに固執してしまう、いわゆる「マニュアル人間」では、伸びしろが生まれないと考えているため。 ・入学前の高校生向けOCから企業との連携を教諭している印象を持っています。3・4年間という在学期間の中で、即戦力の人材だけではなく案会で長く活躍できる人材の育成をして欲しい。 ・3つの建学、繰り返して聞く言葉で教員たちにも浸透している
2 学校運営	2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか 2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか 2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか 2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか 2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか 2-6-1 意思決定システムを整備しているか 2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	3	滋慶学園グループ5カ年計画に基づいて、長期・中期・短期展望をし、毎年、事業計画を作成している。 事業計画は、法人常務理事会、法人理事会の決済を受けて承認される。それをうけて、全教職員に周知・徹底している。 事業計画においては、グループ全体の理念、コンセプトをベースとして方針や方向性、組織、各部署における目標や取組、職務分掌、各種会議及び研修等について、明確に示されている。 内容は、事業計画の核を成す組織目的、運営方針、実行方針、実行計画で構成される。また、事業計画書の組織図には、学校に関わる人材が明記され、全員の組織上の位置づけを誰もが理解できるようになっている。 滋慶学園グループの5カ年計画及び事業計画に基づいて、更なる研修や会議、ミーティングを重ね継続的な人材育成に取り組み、目標達成に向けたスキルとマインドの向上を図りスタッフ一人ひとりの成長を促すことを今後も実践していく。	本校における事業計画は、広報・教務・就職など、学校における全ての部署について立案され、コンセンサスと取る為、全ての部署が同じ方針・同じ考え方をもって、全スタッフ協力の下、目標達成に向けて学校運営がなされる。 学校全体の運営あるいは各部署の運営が正しく行われる為に、様々な研修や会議が設けられ、この研修・会議を通して各個人の目標設定や業務への落とし込みを行い、また、方向性や位置づけ等を常に確認できるシステムを構築している。	3	教育に携わる先生方のモチベーション、意欲、意識が高いと感じる。それは、組織運営や整備ができており、尚且つ組織が向かう方向性をスタッフ一人一人が理解しているということにつながると考える。

3 教育活動	3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか 3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか 3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか 3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか 3-9-3 キャリア教育を実施しているか 3-9-4 授業評価を実施しているか 3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか 3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか 3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか 3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか 3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか 3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか 3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	3	教育活動は、滋慶学園グループの理念、「実学教育」「人間教育」「国際教育」をもとに、構築されている。 教育システムとして、独自の「産学連携教育システム」を構築しており、このシステムにより、業界で即戦力となりうる人材を育成、輩出できている。 教育目標達成のためのカリキュラムは、入学前から卒業まで、体系的に編成されている。 カリキュラムは学科に関わるもののみならず、社会的・職業的自立を目指し、「キャリア教育」の視点に立ったものになっている。 授業改善、教職員・講師の資質向上等を目的とし、授業評価を実施しているが、これを通して講師や学生の状況を正確に把握し、総合的な判断ができる要因となっている。 成績評価・単位認定の基準を明確にし、学生指導を行っているが、明確な基準と共に、柔軟な対応ができる余地を残すことで、すべての学生が学科の目標を達成した上で、進級・卒業できる体制を作っている。 資格取得については、国家検定である「レストランサービス技能検定」、「ブライダルコーディネイト検定」に向けてのカリキュラムが整っている。	滋慶学園グループでは、全職員の目標として １．就職率１００％（第一専門職） ２．退学率０％（入学者は全員卒業してもらう） を掲げ、その達成のために構築した2つの重要なシステムを構築している。 第1のシステムは入学前の自己発見→自己変革→自己確立という、自己3段階教育と、動機づけ・目的意識づけプログラムである。入学前からの一貫した育成システムと目的意識をもって取り組むプログラムの組み合わせにより、モチベーション向上を果たしている。 第2のシステムは、即戦力としての実践的技術・知識、ビジネスマインド等を身につけるための教育システム「産学連携教育システム」である。 具体的な取組として ①企業プロジェクト ②ダブルメジャー・カリキュラム ③業界研修 ④海外実学研修 ⑤特別ゼミ ⑥特別講義 を通して人材育成を実践している。	2.8	当社もご協力しているが、各業界から講師を招き、現実・実地に即した 学習の場が提供できている。 カリキュラムも段階を追って設定されており、取得することで自身の今後の 武器となり得る資格取得にも積極的に取り組んでおり、学生のキャリアを しっかりと考えた教育活動になっていると感じる。 第一専門職への就職率100%、退学率0%という目標の設置とそれに 向けてのシステム構築は考えられているが、退学率が10%と、全国平均に 比べると若干高いという状況に対しての原因分析、対応策が伺えておらず、ここの点を詰めていく ことで、完全達成は難しいかも知れないが、退学率0%については、少しでもここに近づけていくこと ができると考えている。 ただ学生の将来をしっかりと一緒に作り上げていく、考えていくということが 最も重要と捉えているので、目標達成に固執しすぎて学生が苦しくならない よう配慮をしていく必要はあると考えている。 就職率も同様で、社会で活躍できる人財を育てるという観点でいけば、 目的のある第一専門職以外への就職に対しては、しっかりとフォローし、 学生が社会に羽ばたいていける後押しをしっかりとやっていって欲しい。

4 学習成果	4-13-1 就職率の向上が図られているか 4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか 4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	3	学修成果は目標達成の努力の結果であるが、本校では、専門分野就職者、資格取得の目標を学修成果とし学校運営を行っている。 就職希望者全員の就職を達成しているが就職希望者の内、全員が第一専門職で就職がしていない現状がある。 専門分野での就職率（第一専門職での就職）を第一に考え就職サポートの向上を図ることが課題となる。	就職早期内定者が前年より早いペースで決まっており学修成果が上がっている。 本校では第一専門就職率１００％を達成するため、キャリアセンターを中心に、就職情報の管理等のシステムを構築している。 また就職支援のためサクセスナビシステムで姉妹校との情報共有や合同企業説明会などでグループ力を活かしたサポートを行っている。	2.8	3に記載の通り、第一専門職ではないとしても、就職希望者全員が 就職できている状況は素晴らしいことと捉えている。 それはキャリアセンターを中心とした就職情報管理が充実している ことの証明と考える。 ・資格取得が目的とならないようにしてほしい。 ・資格取得が目的ではなく、何のための資格か、資格を社会にどう活かすことができるのか、取得後を学生が想定し、資格に挑戦できる環境を整えて星井。
5 学生支援	5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか 5-17-1 退学率の低減が図られているか 5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか 5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか 5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか 5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか 5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか 5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか 5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか 5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか 5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取組んでいるか 5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	2	学生が目標を達成できるように、物心両面の環境を整備していくことで支援に繋がると考える。しかし、支援はあくまでも支援である。例えば、健康の維持は学業目標達成には欠かせない事項であり、本校でも健康診断にとどまらず、多くの支援体制を築き上げているが、学生本人が健康管理についての自覚を持たない場合、支援は効果がない。それゆえ、学生支援はまず学生の自立的行動を促すことから始めている。 学生支援には、①就職　②学費　③学生生活　④健康　などの分野で行っているが、それぞれの分野で対応できる担当部署及び担当者を置いている。 ①就職については、専門部署であるキャリアセンターを設置し、担任との強い連携をとりながら、就職の相談、斡旋、面接他各種指導などの支援をしている。 ②学費については、相談窓口として事務局会計課を置き、提供できる学費面でのサービスをアドバイスするファイナンシャルアドバイザーにより支援している。 ③学生生活については、担任及び副担任制により行うが、それ以外にもJTSC（ジケイトータルサポートセンター）という悩みや相談を受ける専門部署を設置、支援している。 ④健康については、滋慶学園グループのクリニックである慶生会クリニック福岡が担当し、在学中の健康管理を支援している。	滋慶学園グループでは、「学生=お客様」というコンセプトを持ち、学生を第一に考え、様々な支援体制を整備している。 その中でも、「就職」は学生が目標を達成し、業界で活躍するための最重要事項であり、本校では非常に力を入れており、キャリアセンターという専門部署を置き、専任のスタッフを配置している。 キャリアセンターは、業界現場での実践研修である「業界研修」の指導から、個別相談、就職対策講座、就職支援イベント開催、就職斡旋等々、就職に関するあらゆる支援を行っている。 入学後から個別カウンセリングを行い、退学者減少に力を入れている。JTSCなどとの連携も強化し、担任・副担任が、一人ひとりの出席状況も把握しており、早期フォローに努めている。	2.5	

6 教育環境	6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか 6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか 6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか 6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	3	最新の設備、機材など、業界で必要とされる最新・最良のものを完備する考えで運営している。毎年、事業計画で、予算を計上し計画通りに更新している。 インターンシップや学外実習について、各業界の協力体制が整っている。 海外実学研修はハワイ、オーストラリア、シンガポールに提携校があり充実した研修体制が整っている。 防災に関しても、定期的に防災訓練を実施し安全管理の体制も整っている	学生数などに応じ、機材や設備に必要なものを整え、学生の教育効果を常に考えている。また、メンテナンスも重要で、関連企業とも連携をとっている。 学園グループの関連サポート企業のｼﾞｹｲｽﾍﾟｰｽ㈱は、学校施設の環境・衛生・点検・補修・改修を担う企業であり、予算を含めて単年から中・長期的な観点で学校のサポートを行っている。 インターンシップは単なる学習効果だけではなく、学生本人が自身のスキルをプレゼンテーションする場となっており、また協力企業においても人材確保の機会として捉えることで、多くの内定が生まれている。	3	各業界からの教育への協力や留学制度など、業界を目指す学生にとって 魅力的に映る環境が整っている。 1階ロビーのカフェや、教室内の清潔さなど施設面の環境も良いと言える。 インターンシップも色々なところでやっていただけると生徒も実践・実感が湧くと思う。
7 学生の募集と受け入れ	7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか 7-25-2 学生募集を適切かつ効果的に行っているか 7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか 7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか 7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか 7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	2	本校は、東京都専修学校各種学校協会に加盟し、同会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容（AO入試等も）を遵守している。また過大な広告を一切廃し、必要な場合は根拠数字を記載するなど、適切な学生募集ができるように配慮している。 　広報・告知に関しては、各種媒体、入学案内、説明会への参加やホームページを活用して、学校告知を実施し、教育内容等を正しく知ってもらうように努めている。これらすべての広報活動等において収集した個人情報・出願・新入生の個人情報等本校に関わるものの個人情報は、校内に個人情報委員会を設置し、厳重に管理し、流出及び他目的に使用しないように、管理の徹底を図っている。本人への掲載承諾などは確実に行われているが、印刷物、HPなど掲載箇所が複数になる場合などにも配慮が必要である。 　入学選考に関しては、出願受付及び選考日を学生募集要項に明示し、決められた日程に実施しているが、入学選考後は、「入学選考会議」により、合否を決定する。 なお、本校における入学選考は、学生募集要項にも明示している通り、「面接選考」及び「書類選考」であるが、その基準となるのは、「目的意識」である。 将来目指す業界への職業意識や具体的な目標がしっかりしているかを確認すると共に、その目的が本校より提供する教育プログラム及びカリキュラムにおいて実現可能かを確認するもので、入学試験という名称のもと、学科試験を行うものではない。出願方法に関しては多様化しているため、選考方法や受付時期の違いなどがわかりにくい 　学納金や預かり金、教材等の見直しを毎年行っており、学費及び諸経費の無駄な支出を数名体制で確認している。 　保護者への授業料及び諸経費の提示についても、入学前の段階において、年間必要額を学生募集要項に明記し、基本的に期中で追加徴収を行わない。	学生募集については、募集開始時期、募集内容等々ルールを遵守し、また、過大な広告を一切排除し、厳正な学生募集に配慮している。 広報活動は、第一に「入学前教育」を前提とする活動である。将来、目指す職業を自ら見つけることのできる自己発見の場を提供することに尽力し、入学前に職業観をどれだけ明確にできるかというキャリア教育に重点を置き、体験入学や説明会への複数回参加を促し、充分理解して疑問を解消し、満足した上で出願してもらうことを心がけている。	2	入学辞退率の改善に向けての取り組みは進めており、改善が期待できる。 委員会の際に意見として出た、他の専門学校と当校との違いをより強く アピールすることで、より知名度は上がってくるという点は同感。 学生に当校の良さを理解してもらった上で出願してもらうというプロセスは 評価できるため、1ではなく、2評価とした。 就職においても同じことが言えるが、行った先の自分がどれだけ想像 できるかとか、行った先で何を得られるかとかいったことが今の子たちが もっとも気にしていることだと感じている。現在既にその部分は取り組んで 下さっているようだが、同じものでも個々で感じ方や捉え方は変わるので コミュニケーションをしっかりと取り、個々に沿った見せ方、伝え方が できるとより良いモノにんっていくと考えている。
8 財務	8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか 8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか 8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか 8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	2	毎年5ヵ年の事業計画を作成し、中後期の視点で5ヵ年の収支予算を立てている。また収入と支出のバランスは、理事会で毎年確認されている。 5ヵ年の予算は、中長期を見越した新学科構想、施設・設備構想、人員構想等を考慮して支出を計画し、将来の学生数等を鑑みながら収入を予測し、収支計画を作成する。 学園本部の機能として二重チェックの体制となっており、学校の財務体制をしっかりと管理し、健全な学校運営が出来ていると自負している。 また、監査は私立学校法上義務付けられている「監事監査」のほか、「後任会計士による監査」も受けている。 さらに、私立学校法に基づいた財務情報公開の体制を、平成１７年４月からとっている。 ※当校における情報開示の申請は、現状ではない。	当校が属する法人の財務情報公開に関しては、下記の通りとなっている。 ＜組織体制＞ １. 法人統括責任者 ２. 学校統括責任者 ３. 学校事務担当者 ＜公開資料＞ １. 財産目録 ２. 貸借対照表 ３. 収支計算書 ４. 事業報告書 ５. 監査報告書 ＜閲覧場所＞ 法人本部	2.5	

9 法令等の遵守	9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか 9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか 9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか 9-34-2 自己評価結果を公表しているか 9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか 9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか 9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	3	令遵守については、滋慶学園グループ全体の方針として掲げ、各校の教職員全員でその方針を理解し、実行に努めている。法人理事会のもとに、コンプライアンス委員会で学校運営が適切かどうかを判断し、また学校運営（学科運営）が適切かどうかは次の各調査等においてチェックできるようにしている。 ①学校法人調査②自己点検・自己評価③学校基礎調査 ④専修学校各種学校調査　⑤学校施設認定規則に基づく報告等である。 　また、組織体制強化やシステム構築にも努め、次のようなものがある。 （A）組織体制 ①財務情報公開体制（学校法人） ②個人情報管理体制（滋慶学園グループ） ③広告倫理委員会（滋慶学園グループ） ④進路変更委員会（滋慶学園グループ） （B）システム（管理システム） ①個人情報管理システム（滋慶学園グループ） ②建物安全管理システム（滋慶学園グループ） ③防災管理システム（滋慶学園グループ） ④部品購入棚卸システム（滋慶学園グループ ⑤コンピュータ管理システム(COMグループ） 滋慶学園グループというスケールメリットを活かし、各委員会、体制、システムにより、各校が常に健全な学校（学科）運営ができるようにしている。 法令や設置基準の遵守に対する方針は明文化し、法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは完全に整備できている。	3つの教育「実学教育」、「人間教育」、「国際教育」で「職業教育を通して社会に貢献する」という建学の理念の実現を目指し、４つの信頼（「業界の信頼」、「高校の先生の信頼」、「学生・保護者の信頼」、「地域の信頼」）を確保するためにもコンプライアンス推進をはかる。 具体的には、すべての法令を遵守するとともに、社会規範を尊重し、高い倫理観に基づき、社会人としての良識に従い行動することが私たちの重要な社会的使命と認識し、実践する。 方針実行のため、学内にコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンスを確実に実践・推進に当たっている。 委員長は、統括責任者としての学校の役員が就任すし、委員は学校の現場責任者である事務局長と実務責任者の教務部長で構成される。 主な任務は、行動規範・コンプライアンス規程の作成、コンプライアンスに関する教育・研修の実施、コンプライアンス抵触事案への対応及び再発の牛対策の検討・実施、コンプライアンスの周知徹底のためのPR、啓蒙文書等の作成・配布である。 監事による毎年の監査に際して、業務監査の対象として、コンプライアンスの実施状況についても監査してもらっている。	3	
10 社会貢献	10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか 10-36-2 国際交流に取組んでいるか 10-37-1　学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	3	本校には、滋慶学園グループの「４つの信頼」（①業界の信頼　②高等学校からの信頼　③学生・保護者の信頼　④地域の信頼）というコンセプトがある。 建学の理念にもある「国際教育」にも積極的に取り組みを行っている。 この「４つの信頼」の獲得を目指すことが社会貢献に繋がると考えている 業界、地域のイベントボランティアにも積極的に参加し業界などと強いつながりを構築している。 高等学校への講師の派遣なども積極的に行っている。 地球温暖化防止対策で節電など取り組み社会貢献に繋がっている。	本校の施設、設備を活用し、「４つの信頼」を行い、社会貢献に繋げていく。 業界の信頼では、学校施設を活用し、各種イベントを積極的に支援し、社会貢献に繋げている。 各ボランティアにも積極的に参加や、近隣の清掃活動なども行っている。	3	